

常任委員会審査から

常任委員会へ付託された案件中、審査の過程で特に議論となった点について、委員長報告の要旨を掲載

総務委員会

平成22年度岡山市財産区費特別会計補正予算（第1号）ほか6件の議案が付託され、いずれも全会一致で原案のとおり可決並びに同意すべきものと決定した。

■市職員の仕事と子育ての両立を支援

－仕事と子育ての両立支援等を一層進め、男女共に子育て等ができる働き続けることができる勤務環境を整備するため、条例の一部を改正するもの－

委員 現実的に制度が活用できる人員体制となっているのか。

市 現在ゼロベースでの定員分析を踏まえ、中期採用計画の策定を考えており、各業務の内容等を分析しての人員体制を検討している。また、制度が十分活用できるように、各局や課の中で協力でき、職員の負担がより軽減できる体制となるように努めていきたい。

委員 育児休業を取得する男性職員が少ないが。

市 今後は周知徹底を図り意識改革をして、制度を活用する男性職員の増加を図っていきたい。

保健福祉委員会

平成22年度岡山市老人保健医療費特別会計補正予算（第1号）ほか4件の議案が付託され、いずれも全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定した。

■私立保育園3園の整備助成

委員 3園の整備で定員は何人

増になるのか。また、保留児は0～2歳児の占める割合が多い。0～2歳児の定員はどれくらいになるのか。

市 今回の整備で定員は110人増える予定で、0～2歳児の定員はその約3分の1である。保留児は、5月1日現在で649人。そのうち0～2歳児は450人。

委員 保留児の解消、特に0～2歳児の保留児の解消に向けた計画を立てる意志はあるのか。

市 心豊かな岡山っ子育てプランで示しているが、短期的な計画策定は難しい。今後、園長会などで理解を得ながら、民間活力による整備を進めたい。

委員 心豊かな岡山っ子育てプランは、保留児を解消するものになっていないので修正が必要である。園長会などで理解を得るためにも、市の政策を明確に示した計画を立てないと、保留児解消にはつながらない。保育士の補充も含め、保留児解消につながる計画を持つべきである。

■精神障害者地域支援システムの整備

－精神障害者で受診困難者や未治療・医療中断者のうち、訪問指導のみでは支援ができない人に医師や保健師等、多職種チームが訪問したり、精神保健福祉士等の専門家を地域移行推進員として配置し個別支援を行い、退院後も安定した生活が送れるよう継続訪問するといった、地域支援システムの構築を図るもの－

委員 目指す方向、目標を持って、計画を遂行するための着実

な一歩になるようしっかりとした実績を積んでほしい。

市 支援を受ける人が地域に定着することが最終的な目標である。今回の事業により、地域からの相談に応じることにも力を入れていこうと考えている。

委員 地域移行推進員は、時間と労力が要る仕事なので、事業のスタートラインから基礎をつくって頑張ってもらいたい。本委員会としても事業の推進に協力していきたい。

市 政令市になってからこういった事業を直接行えるようになった。こころの健康センターもできたので、保健センターとも連携して事業を進め、平成22年度はまず着実な実績を上げて今後につなげていきたい。

環境消防水道委員会

訴えの提起ほか1件の議案が付託され、いずれも全会一致で原案のとおり可決並びに同意すべきものと決定した。

経済委員会

平成22年度岡山市一般会計補正予算（第1号）が付託され、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定した。

■表町商店街の活性化

－表町商店街の一部の組合が取り組む「省エネ対応型アーケードへの改修事業」の一部費用を補助することにより、商店街の活性化を図るもの－

委員 表町商店街の一部の組合